

国際法学者として、あな「戦争」を支持した。私は国際

たは米国政府によるイラク戦法の専門家として、アルカイダを標的にした攻撃は、国際法の違法性を厳しく指摘しています。でも、二〇〇一年の法や国連憲章に照らして合法

9・11米中核同時テロ事件の習月が始まったアフガニスタ

ン戦争については支持して

たですね。

今思うと恥ずかしい限りだ

が、テロ当事者とされる国際

テロ組織アルカイダ、その指

導者のウサマ・ビンラディン

が隠れている地域へのブッシ

ュ政権による「報復戦争」は、

許容されるといった。事件が

起きる前日までは、世界最強

の軍事力を誇る米国が攻撃さ

れるなど想像もできないこと

だった。しかし、現実になれ

て起きた。

誤爆で住民殺傷

「テロとの戦争」に疑問を抱き始めたのはいつごろ

ですか。

〇二年の末ごろには「お

かしい」と思い始めた。テロ

リストを追い詰めていくには、

地上軍を増やす必要があっ

た。ところがラムスフェルド

前国防長官らは空爆を重視し

た。空から爆撃をしては、何

度も誤爆を繰り返して罪もな

い多くのアフガニスタン住民

を殺傷した。

犠牲者の遺族からすれば

「なぜ自分たちが攻撃され

るのだ」と、米国人への反発

と憎しみに変わりますね。

その通りだ。テロリストと

戦っているはずが、いつの間

にか「国家テロ」を犯すこと

の戦い」を口にするブッシ

ュ政権を、これ以上信じるこ

ろとされるビンラディンを

とがでなくなってきた。

結果論ですが、今ではア

フガン大統領でさえ、大量破

壊兵器の保有や、サダム・フ

「愛国心」警戒を

要忘れてしまったテレビや新

聞など主流メディアの政府情

報のたれ流し、独裁者は許さ

ないとの素朴な思い……。こ

うには「愛国者法」が成立しま

した要素が重なって、イラク

戦争に突き進んでしまった。

国連や圧倒的多数の世界の市

民の反対世論を無視してね

い。

「愛国心」警戒を

包括的なテロ対策とし

て、9・11テロから一月後

国が、全体国家のようになっ

ていく。結局、その方が政権

が考える世界戦略や国内政策

を進めやすいからだ。権力に

就く政治指導者が「愛国心」

を呼び始めたら気をつけた方

がいい。

「そうですね。日本でもそ

ういう傾向が強くなっていま

す。ところで、核兵器や核物

質がアルカイダのような非国

家組織にわたる危険性も無視

できなくなってきました。

そう。核保有国や原発を利

用する国が増えることで、そ